



1ヶ月イチで看護の歴史を学ぶ!

# プチナースの 勝手に“朝ドラ”受け



2026年上半期のNHKの連続テレビ小説「風、薫る」がもっとおもしろくなる! ドラマのモチーフになった2人を通して、看護の歴史をたどりましょう。

執筆 鈴木紀子

看護史研究会、元天理大学医療学部看護学科 特任教授

連続テレビ小説

## 風、薫る

2026年3月30日(月)  
より放送開始!

**STORY** 文明開化が進む明治の日本を舞台に、主人公・一ノ瀬りん(見上愛)と大家直美(上坂樹里)が看護婦として活躍する人生を描く。まだ「看護」という職業の専門性が認められていなかった時代に、「看護とは何か?」「自分らしい生きかたとは?」を模索し、さまざまな困難に2人で立ち向かっていく物語。



### 第1回

## 明治の看護と2人の生き立ち

看護学生のみなさんは、日本で看護師という職業の礎を築いた尊敬すべき大先輩を知っていますか? それは2026年3月30日(月)に始まる、NHK朝の連続テレビ小説「風、薫る」の主人公(一ノ瀬りんと大家直美)のモチーフとなった**大和**と**鈴木雅**です。この連載では、2人の実像を紹介しながら、“朝ドラ”の見どころや当時の看護なども紹介していきたいと思えます。

### 別の道を歩む2人が看護師をめざすまで

和は1858年、黒羽藩(現在の栃木県大田原市付近)の家老の娘として生まれ、上級藩士一族としてエリート意識をもって育ちました。しかし戊辰戦争で徳川幕府が崩壊し、幕府と近い関係にあった和の父は家老職を辞します。10歳だった和は、父に恥じない生きかたをしようと決心します。

和は18歳で父が決めた結婚をし、長男六郎を授かりますが、23歳で離婚を決意し実家に戻り、長女を生みます。実母に子どもを預けて働くなかで、英語を学び、教会にも通い始めると、牧師に**トレインドナース(正規に訓練された看護婦)**になることを勧められます。当時は**人の看病をする者は身分の低い人**という認識だったので、和は「看護婦とは情けない」「身分不相応」と受け入れませんでした。しかし、熱心な牧師の説得に、和は**神が自分に与えた道**だと気づき、看護学校への入学を決意します。

雅は1857年、静岡県士の家の生まれ、陸軍少佐と結婚し、1男1女を授かります。夫は陸軍大隊長として活

躍しますが、雅が26歳のときに病死し、4歳と2歳の子どもを抱えて未亡人となります。夫は仙台の陸軍病院で亡くなったのですが、雅は**夫に看護の手が行き届かなかったことを悔やみ**、看護の道を選びます。

### 近代看護のはじまりを担った人たち

未だ看護が専門職として確立していなかった明治中期、看護婦の道を選んだ人の特徴は、**旧士族で知識階級**であり、**西洋直輸入の看護教育を受け入れる素地**があったこと、**行動する際の精神的支柱はキリスト教**であったことなどが挙げられます。4月は、遠く離れた地で育った2人がどのように看護学校入学を決心するのか、どのように描かれるのが楽しみにしていきましょう。

